

『博覧強記』

マネは、クロード・モネの姿を、
目の前に広がる景色を、
伝えるために絵を描いた。

インターネットは、記憶するための道具。
次世代に残したい記憶を、記録していこう。

PSPED BITS

『舟の中のアトリエで制作中のモネ』(1874年)
エドゥアール・マネ



佐谷宣昭 Nobuaki Satani

1972年生まれ。九州大学工学部建築学科卒業。2000年九州大学大学院人間環境学専攻博士課程修了、博士(人間環境学)。翌月起業。株式会社パイブドビッツ社長CEO。明日の豊かな情報生活に貢献したいとの想いから、「情報資産の銀行」の必要性を説く。官公庁や都市銀行、小売業など3067の事業者へ情報資産プラットフォーム「スパイラル(R)」を提供中。

株式会社パイブドビッツ
東京都港区赤坂2丁目9番11号
03-5575-6601(代表) <http://www.pi-pe.co.jp/>

『大学教育とIT』

10月11日、JMOOC(日本オープンオンライン教育推進協議会)が設立された。米国で先行するMOOC(マッシュワ・オープン・オンライン・コースイブ)の日本版で、設立当初から国内の主要13大学が参加を表明し、来年の4月からオンライン講義の公開を始め、将来は日本のみならず、アジア諸国にもオープンオンライン学習環境の提供を目指すとのことだ。

一方の大学はというと、JMOOCを反転学習に活用する方向で検討しているようだ。一般的な説明型の講義はオンライン配信して教室では行わず、教室では自宅で予習した知識をもとに応用課題を対話的に学ぶことで学習効果を高める狙いだ。今は興味さえあればインターネットに記録された膨大な知識をいつでも学べる時代だ。学生がその知識を咀嚼し、使いこなせるレベルに昇華させることに大学が注力するのは良いことだと思う。

私がJMOOCに期待したいのは、大学が社会の学習ニーズを把握し、学習プログラムを改善することに役立てて欲しい、ということだ。例えば、IT業界では最近、データサイエンティストなる仕事のニーズが高まっている。分かりやすく言うと、経営課題の解決策にヒントを与える統計屋さんなのだが、その役割を果たせる人が足りないのだとか。

今では民間企業が中心となってデータサイエンティストの育成に努めているようだが、学生時代に統計解析を使っていた経験からすると、そもそも大学で統計解析を学んだ学生が少ないのだろうと思う。JMOOCによって、多くの人が統計学の講義を学び直すことが出来るかもしれないが、そもそも、統計解析の学習ニーズを大学が把握していたかという点、それは疑問だ。同様の問題は統計学に限らない。母校の現状を見るとよくわかる。

JMOOCの講義は広く公開されるため、仕事に就いている多くの卒業生がアクセスするだろう。大学は卒業生から学び直しのニーズを把握し、時代に合った学習機会の創出に努めて欲しい。この姿勢は大学経営の改善にも貢献すると思う。